



《 例会 》 毎月第2水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2017~2018 年度主題

国際会長	「国境なき友情」
アジア地域会長	「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事 栗本治郎 (熱海)	「広げよう ワイズの仲間」
北東部部長 鈴木伊知郎 (宇都宮東)	「明日のために、いま土台を築こう」
会津クラブ会長 青山孝男	「新しい可能性を秘めて、共に歩もう！」

<No.271 会津通信>
2017年11月15日発行

会 長	青山孝男
副会長	高橋眞美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

◇11月の聖句◇

義に飢え渴く人々は、幸いである。その人たちは満たされる。

マタイ福音書5章6節

11月例会プログラム

日時 ; 2017年11月15日(水)19:00~

会場 ; 若松栄町教会

司会 ; 高橋京子さん

- | | |
|---------------------------------------|-----------|
| 1. 開 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 青山孝男会長 |
| 4. 連 絡・報 告 | |
| 5. 聖 句 朗 読 | |
| 6. 食前感謝 | |
| 7. 会 食 | |
| 8. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |
| 10日高橋力さん | 21日高橋眞美さん |
| - あかべこ | |
| 10. 閉 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |

<10月例会出席状況>

在 籍 者 5名 ゲスト0名

出 席 者 5名

*例会出席率 100%

あ か べ こ 5,000円

17-18年度合計 10,000円

スローライフ的スマートな生活を

高橋 真人



最近「スローライフ」という言葉を久しぶりに聞いた。一時期ゲームのようによく使われていたような記憶があるが、大切なことに改めて気づかせてくれる言葉だと感じている。

スローライフとは「生活様式に関する思想の一つ。ファストフードに対して唱えられたスローフードから派生した考え方で、大量生産・高速型のライフスタイルに対して、ゆっくりした暮らしを提案するもの。Slow livingに相当する和製英語である。明確な定義はないが、地産地消や歩行型社会を目指す生活様式などを指すことが多い」とされる。

携帯電話、特にスマートフォンやタブレットとそれに伴う SNS の爆発的ともいえる普及と重なるように「スローライフ」という言葉が消えていったように思う。まさに再び「高速型のライフスタイル」へと引きずり込まれているのが今の社会なのかも

☆ 強い義務感を持つと 義務はすべての権利に伴う。 ☆

知らない。

大量・高速型と言ってもそこで動いているのは情報であって、人間が動き回っている訳ではないだろう。そのような生活に自分が浸ってしまっていることに気づかせてくれる言葉との再会だった。

(次回は高橋京子さん)

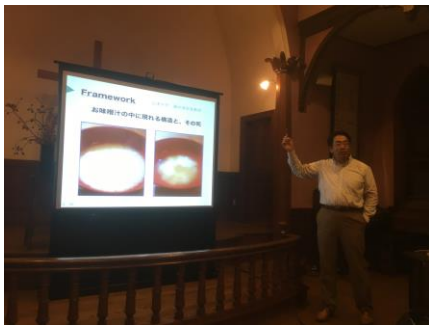


10月の例会は

子どもたちにとってより「安心・安全」な「居場所」を子どもたちと一緒につくって、地域の方々とさらに繋がり、「ともに支えあえる社会」をつくっていくための活動をしている特定非営利活動法人「寺子屋方丈舎」代表の江川和弥氏より「こども食堂」の話をワイズ以外の方も参加しての例会でした。

「以下は寺子屋方丈舎」のHPからの掲載です

寺子屋方丈舎は、創始者である江川和弥の思いからはじまりました。1999年5月まで江川は会津若松市教育委員会の教育相談員を務めてきました。会津若松市の適応指導教室の担当として小中学校の子どもと遊んでいました。



実は江川自身が学校に行かなかったゆえに不登校の子どもへの対応を頼まれたのです。嘱託ながら、人件費は十分に支給される中で、不登校

の子どもと関わり続けるというのは、農業を営む江川に取ってはありがたい事でもありました。

そこに事件が起きてきます。市の教育委員会で運営しているために、市外の子どもの対応が難しくなってきたのです。子どもが警察沙汰も含めて問題をおこすたびに私の活動は制約されてゆきました。子どもは問題を起こすから楽しいのに、それを否定されたら窮屈になってしまう・・・。

これはいっそ民間でやった方がいいのではないかと子どもが来なければやめれば良いさ・・・

こんな安易な考えではじめてのが寺子屋方丈舎です。34歳の江川には大きな決断でした。でも、ここで逃げ場をなくした事が自分にとって大きなプラスになるとは知らずに・・・

3人の子どもからはじまった方丈舎はやがて7人、10人と増えてゆきました。

学校に行っている子にもプログラムの提供をと2003年からは、環境教育を始めています。

2005年からはニート支援の事業

も加え、不登校・若者支援と地域支援を同時に行っているのが現在です。



会津の先人たち (会津若松市HPより)

社会福祉・児童福祉の先駆者

瓜生 岩(岩子)(うりゅう いわこ)(1829-1897)

会津のナイチンゲール

戊辰戦争により郷土が荒廃し尽くした会津で、社会活動に一生をささげた女性がいました。岩は、熱意と情熱、その無私の人柄により貧民から華族にまで愛された人でした。

艱難(かんなん) 辛苦に耐えて

岩は、江戸時代後期の文政12年(1829)、耶麻郡熱塩村(現在の熱塩加納村)に油商であった父、渡邊利左衛門と母りゑの長女として生まれました。9歳のとき、父を亡くしたうえ、家が炎上したため、母の実家に戻り瓜生の姓を名乗りました。渡邊家の再興を図る母の勧めで、会津藩の御典医をしていた叔父の山内春龍(しゅんろう)宅に行儀見習いに出、後の慈善活動の基礎となる仏教と堕胎防止の啓蒙思想を身につけます。

17歳で婿養子を迎え、若松の横三日町に呉服店を開きます。一男一女に恵まれた矢先、夫が咯血(かけつ)。その後7年の間に叔父の死、番頭の金の持ち逃げ、夫の他界が続き、店を閉めて母の実家の熱塩に戻ります。翌年には、母も亡くすという失意の時期を過ごしました。(以下次号へ)

◆ 今後の予定 ◆

◇12月例会 12月13日

◇ユニークダンス

12月20日 納会